

## 五年生の実践から見えてきたもの

表現のよさに触れ言語活動を  
楽しみながら読ませるには

鹿児島市立明和小学校教諭 有村 隆志

### 一 学習の場について

本学習の場で提供される二つの教材「大造じいさんとガン」と「月夜のみみずく」はともに児童に興味・関心をわかせるにはおかない文学教材である。物語と詩という違いがありながら、その迫力にどちらを選択するか迷う。同時にまた、学習指導要領で「生きる力」が強調されているが、ここでは身につけた読み取りの力を生かしながら、自分なりに楽しくさまざまな表現活動ができるだろう。今までの学習で身につけた力がどれほどか真価を問われる場である。

### 「大造じいさんとガン」について

長年いろいろな実践を重ねられてきたこの教材は、場

### 二 学習計画（全十二時間）

- 学習展開としては、さまざまな領域の活動が予想されるが、ある程度教材の内容やよさを知らなければ自分なりの学習が選択できないので、まず「読む活動」だけはいっかりとさせた。その後、発表や報告でそれぞれの学習の成果を味わう時間を作った。（内は指導のポイント）
- (1) 二つの作品を読み、それぞれの作品のよさを比べ合う。（選択の仕方、学習活動の予測）
  - (2) 作品を選択し、発表会に向けての計画を立て、活動する。（グループ、学習の手引き、中間発表会）
  - (3) 展示、発表会、報告会をする。（発表内容と評価）

### 三 指導の実際

**作品を対比的に読み、作品のよさに気づかせる指導**

二つの作品に対する初発の感想は、次のようなものが多かった。

#### 「大造じいさんとガン」の例

- ・いかにも頭領らしいガンと大造じいさんとの知恵比べは、はらはらして先が読みたくなる。
- ・仲間を助けた残雪のリーダーらしさと野生のガンの行動がすてきだ。

面構成の巧みさ、本能のままに生きるガンの頭領「残雪」の行動が、あらゆる方法で捕獲を試みる「大造じいさん」の心情をゆさぶり変容させる内容、自然描写の見事さなど、多様な学習への発展を可能にする教材である。

#### 「月夜のみみずく」について

詩の学習は、経験が少なく慣れていない児童が多いが、この長編の詩は場面がはっきりしているので、物語のように想像力をかきたてられながら情景や人物の行動を読み、一体となって心の通い合いを実感できる優れた教材である。雪国の感覚の乏しい児童にとっては、挿絵の緊張感を感じさせる場面の描き方もよく、表現意欲をかき立てられる。

したがって、この二つの教材は、形式は違っても学習に取り組み児童にとって困難な点は多くない。ここでは、学習経験を生かし、次のような能力を育てたい。これは、ここでの学習の目標で示されている「自ら学び自ら考える力」を育てることの内容でもある。

登場人物の心情や場面描写など優れた叙述を味わう力  
自分の意図がわかるように表現し、適切な話し合いができる力

文学作品のさまざまな読み方を駆使して、主体的に自分の課題に取り組み、効果的な表現活動を楽しむ力

・二人の友情には感心させられ、読んだ後さわやかな感じがする。

#### 「月夜のみみずく」の例

- ・父親とみみずくが会話しているように楽しい。
  - ・女の子の見たこと、感じたこと、思ったことが場面の展開とともにわかる構成がいい。
  - ・言葉の使い方が上手で、絵に迫力がある。
- 二つとも登場人物の心の移り変わりが読み取りの中心となる。音読、イメージスケッチ、吹き出し、対談（グループ）などで、あらずじ、登場人物の心情、表現や挿絵のよさ、不思議な点や疑問などについてまとめられるように、次のような活動をさせた。

(1) 初発の感想の根拠になった言葉や場面、挿絵などのよさを発表する。（指導書一八五ページを例にワークシートにまとめる。）

(2) 主題について考え、自分なりの見方を持つ。

(3) 説明がよくわかるように、具体的な文章を朗読したり、小黒板を使って吹き出しなどを書いたりする。

(4) 小グループに別れ、登場人物についての感想、場面や出来事についての感想、表現のよさ、疑問などについて話し合い、自分なりの考えをまとめて発表する。

## 作品と発表方法を選択する指導

これまで経験した発表方法の一覧表を作成し、自分の読みたい作品、自分のやりたい方法などを考えさせて、グループまたは個人で決定させた。その後、手引きをもとに、個人の支援を図りながら、作品そのもののよさが伝わるような内容にするよう助言した。

### 「大造じいさんとガン」の児童の計画例

- ・ペープサートを活用した音読発表会をする。
  - ・大造じいさんや残雪に手紙を書く。
  - ・人と動物の物語を読んで、読書紹介文を書く。
  - ・帯カバーやパンフレットを作って展示をする。
  - ・「大造じいさんとガン」の続き物語を書く。
- ### 「月夜のみみずく」の児童の計画例
- ・自分なりの絵本を作り、読み聞かせをする。
  - ・パンフレットを作り、書評を書く。
  - ・好きなところを音読し、挿絵を書き換える。
  - ・好きな表現について言葉の研究をする。

子どもたちは、やはり既習経験の中から、思い出に残る活動をやりたがった。

学習の手引きについては、あまり詳細で具体的なワークシートを準備せず、自由に表現させることが大切だと考えた。手引きは、手順と活動内容を書くにとどめた。

### A児の「この本読んでくらん」の紹介文

私がおすすめるのは、「月夜のみみずく」という本です。この題名からとっても静かな夜だということとがわかります。さし絵からは、寒くて夜明け前だということが伝わってきます。登場人物の女の子は、みみずくという「フクロウ」を見るためにがんばります。お父さんに「しゃべってはいけない」と言われた女の子、その女の子が、心の中でいつぱいしゃべっていて、歩いている途中に、いろいろ話しているところがとてもおもしろいのです。女の子とお父さんはだまったまんま、どこまで行くのだろうと思っくらい歩きます。

お父さんが「ほっ、ほほほほっ」というと、ついにはみみずくが現れます。大きな目をして、今にも動き出しそうなくらいに美しいのです。

詩のなかにある「お皿にそそいだミルクよりずっとずっと白かった」というのは、本当なのか見たい。つもった雪を生で見たことがない人には、本当に見てみたくなるような表現のある詩です。

「この物語のような詩を読むと、書いてあったとおり「おしゃべりはいらぬ、寒さもへっちゃら、会

(1)「帯カバーやパンフレット」作りの手引きの例

- A 紹介したい作品を選ぶ。
- イ あらすじや特徴、うまい表現を書きぬく。
- ウ どのような読者を対象に書くか決める。
- E 形式、レイアウト、キャッチフレーズを決める。
- オ 分担して書く。

力 展示して発表する。(説明の内容、役割)

- (2) 絵本作り、読み聞かせのための手引きの例
  - A 大きさ、だれに読んで聞かせるか決める。
  - イ 場面、大事にしたい言葉を選ぶ。
  - ウ 絵を描き、役割を決めて音読の練習をする。
  - E 読み聞かせのための中間発表会を開く。
  - オ 読み聞かせの仕方を話し合い、練習をする。
- (音楽・ナレーター・役割読み・群読がいるか)

### 発表までの学習活動が生き生きとなる指導

児童の学習活動が生き生きとなるには、やはり結果に対する見通しとやり方がはっきりわかっていることが必要である。そこで、手引きを有効に活用して、作品を完成させたり、学習成果を交流したりして、学習を深めていくことができるように個人支援を中心にした。

「いたいな、会えるかなってわくわくするのがすてきなんだ。」ということとを、私は教わってしまいました。美しい自然やきれいな言葉にとっしたら出会えるか、この本で探してね。

すいせんの言葉を書くための手引きを活用して

### 四 授業を終えて

思い切った教材選択の学習は、学習のねらいが達成されるか、個人の支援が十分できるかなど指導する方に不安が多く、とまどった。しかし、個人やグループで実生き生きと活動している姿には、一種の感動さえ覚えた。何と今までの学習が制約の多いものであったかと。いくつかの成果と反省をあげてみる。

児童に読むことは楽しい活動だという思い、いろいろな表現の仕方についての知識が広がった。

指導者に児童一人ひとりの実態、個人差に対応する手立ての必要性に対する認識が深まった。

さまざまな学習方法、

表現活動について基礎

的な力をつけておく必

要がある。

